

【SR-9 定性的システマティックレビュー】

CQ	11	末梢静脈/中心静脈からのがん薬物療法を受ける患者に対して、EVの教育を複数回実施することを推奨するか？
P	性別:指定なし 年齢:全て(小児, 成人) 疾患・病態:がん薬物療法を受ける患者(高齢者、小児の場合は家族を含む) 地理的要件:医療施設(外来・病棟)、在宅	
I	EV(兆候、症状、対処)の教育を複数回実施(教育の機会を増やす)	
C	がん薬物療法開始時にEVに関する教育(初回のオリエンテーションのみ)	
臨床的文脈	EVの予防的介入	

01	O1 潰瘍、壊死の減少	
非直接性のまとめ	患者が治療に伴う異常に早期に気づくために患者教育が重要であることについて言及されているが、具体的な介入方法や潰瘍・壊死の減少に対するアウトカムが明らかでないため、	
バイアスリスクのまとめ	症例報告のため対象に偏りがある可能性が高く、EV発生後に行われた指導であること、教育以外に軟膏の塗布や冷罨法も行われているためバイアスリスクは高いと判断した。	
非一貫性その他のまとめ	特記すべき事項なし。	
コメント	報告は1文献(症例報告)のみであり、前向き研究等の報告がなく有効性の評価は難しい。	

02	02 血管外漏出の減少
非直接性のまとめ	EV予防のための1施設の実践方法の変更に関する報告であり、教育以外の実践方法の変更を含むため、EV減少に対する患者教育の重要性は示されているが、その効果を評価すること
バイアスリスクのまとめ	患者教育を標準化し文書化した資材を用いて教育を実施しているが、1施設での実践報告であり対象者の選択バイアスやEV予防のための複合的なアプローチであることによる実行バ
非一貫性その他のまとめ	特記すべき事項なし。
コメント	報告は1文献（実践報告）のみであり、教育の効果は明らかではないため有効性の評価は難しい。

03	05 (電話)相談数
非直接性のまとめ	患者がIRによって経験する心理社会的影響を理解すること目的とした質的研究の結果に患者教育の重要性が含まれるが、
バイアスリスクのまとめ	インタビュー調査から得られたデータであり患者教育が相談1施設でのインタビュー調査に基づく質的研究であり、調査実施施設の特徴や対象者の偏り、想起バイアスによる影響が否定できないためバイアスリスクは高いと判断した。
非一貫性その他のまとめ	特記すべき事項なし。
コメント	報告は1文献（質的記述的研究）のみであり、教育の重要性は示されているが、血管外漏出に限定した調査は行われていないため有効性の評価は難しい。